

ノーリフティングケア＝福祉用具ケアではなく、施設の規模や種別に関わらず全ての事業所において取り組むことができるものです。

福祉・介護業界が安心して長く働ける職場に変革し、利用者と職員双方にやさしいケアの実現を目指すものとしてノーリフティングがあり単なるケア技術にとどまらないものだと感じました。

高知県のノーリフティングの研修や取り組みについてのお問い合わせは「福祉・介護就労環境改善推進事業」を実施しています一般社団法人日本ノーリフト協会高知支部までお願いします。

一般社団法人日本ノーリフト協会高知支部

〒780-0870 高知県高知市本町3丁目6番37号かわさき予備校ビル3階 TEL 088-821-7756

高知県福祉人材センターは・・・

「社会福祉法人高知県社会福祉協議会」が運営する無料職業紹介事業所です。

福祉の仕事に就くことを希望されている方に対して、資格取得や就職活動等の相談また面談会の実施、そして職業安定法に基づき厚生労働大臣許可を得て、福祉の仕事の紹介・あっ旋を行っています。

【無料職業紹介事業許可番号 39-4-010003】

事業所マイページ登録

福祉のお仕事

01 福祉のお仕事にアクセスして「求人事業所の方」を押します。

www.fukushi-work.jp



求人事業所の方

02 ご利用案内を確認して事業所マイページを作成する方は「新規登録」を押します。



新規登録

ご利用案内

事業所登録からマッチングまで

1 事業所マイページ登録を申請

人材センターより承認メールが届きます。

登録

2 求人票の入力・申請

人材センターより承認メールが届きます。

3 マッチング

人材センターからの条件に合った求職者の紹介、応募の連絡をします。

4 施設・事業所で選考

5 採否通知

高知県福祉人材センター・バンクを利用すると・・・

- ✓ 事業所詳細情報を使って求人が無い時も施設をアピールできます！
- ✓ 24時間求人票の申請ができます！
※掲載についてはセンター・バンク職員の承認後になります。
- ✓ 求人票を一度入力すると次回からは「再利用申請」でラクラク申請が可能！

はじめに

少子高齢化、人口減少が進む高知県では、福祉人材の確保・定着が喫緊の課題となっています。

高知県福祉人材センターでは、事業所の魅力発信を行い、福祉分野全体のイメージアップを図り、福祉人材の確保・定着に繋げていきたいと考えています。

この「福祉人材ニュースレター」は、福祉人材の確保及び定着に取り組んでいる各事業所の先行事例を発信し、「ひらめきツール」となることを願って発行を行っています。

令和3年度1回目では、福祉分野への参入者のすそ野を広げる取り組み「介護助手の導入」について発信しました。2回目では、業務の負担軽減や、リスクマネジメントによる職員の定着促進に繋がる「ノーリフティングケア」について発信します。

今回の特集
ノーリフティングケア

今回の特集で「ノーリフティングケア」の取り組みをご紹介しますのは、当センターで求職者から相談を伺う中で、腰痛に関することが多くあったことがきっかけです。介護の現場で働きたいと思っている方が、身体的理由で離れていくことはとても残念なことです。そこで全国に先駆けて、高知県全体で取り組んでいる職員・利用者双方にやさしい「ノーリフティングケア」について情報発信することとしました。



「ノーリフティングケア」導入のポイント

Point

導入のカギはマネジメント



ノーリフティングケアは、働き方を変えて、職員と利用者双方にとって安全なケア現場にするための手法の一つです。そのため、ノーリフティングケアを活用してしっかりと働き方を変えていくためには、単にリフトを導入する、使い方を覚える、困っている人にだけ使うということではなく、“組織体制を整えること＝マネジメント”が重要です。

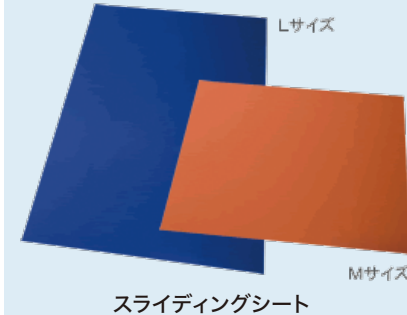
何がいけないのか、何が必要とされているのかを知り、理解し、行動に移し、行動を習慣化していけるように職員教育を行っていきます。

ノーリフティングケアを進めるためには下記のような体制を整えることが必要です。チェックしてみましょう！！

- ☐ ノーリフティング推進チーム（以下の役割を担うマネジメントチーム）をつくっている
 - ①統括マネージャー ②職員の健康管理担当 ③教育担当（教育企画担当・技術教育担当）
 - ④個別アセスメントとプランニング担当 ⑤福祉用具導入計画・管理担当
- ☐ 対象者一人ひとりの個別アセスメントを元にケアがプランニングされている
- ☐ 職員の教育体制が整っている
- ☐ 腰痛調査を行うなど、職員の状態把握・対策がされている
- ☐ 環境整備計画が作成され、担当者が決まっている



引用：高知県/日本ノーリフト協会高知支部（ノーリフティングケア宣言）より



スライディングシート



床走行式リフト

次のページでご紹介させていただきます事業所は、実施事業や規模の違う2つです。取り組みの特色をご覧いただきたいと思います。

操作方法や
詳細について
のお問い合わせは

(福)高知県社会福祉協議会
高知県福祉人材センター

TEL◆088-844-3511 FAX◆088-821-6765 E-mail◆jinzai@pippikochi.or.jp
営業日◆月曜～金曜(年末年始・祝日は休み) 営業時間◆9:00～17:00

(福)安芸市社会福祉協議会
安芸福祉人材バンク

TEL◆0887-34-3540 FAX◆0887-35-8549 E-mail◆bank@aki-wel.or.jp
営業日◆月曜～金曜(年末年始・祝日は休み) 営業時間◆8:30～17:30

(福)四万十市社会福祉協議会
幡多福祉人材バンク

TEL◆0880-35-5514 FAX◆0880-35-5241 E-mail◆hata-jinzai@aria.ocn.ne.jp
営業日◆月曜～金曜(年末年始・祝日は休み) 営業時間◆9:00～17:00

『ノーリフティングケア』取り組み事例のご紹介



社会福祉法人高春福祉会 特別養護老人ホーム はるの若菜荘

(高知市、4事業所展開、設立1993年5月)

第2回高知家ノーリフティング優良事例表彰「優秀賞」を受賞



理学療法士 山口 桃子さん

導入のきっかけは？

平成25年10月に日本ノーリフト協会による研修『看護&介護職の腰痛予防対策～腰痛予防対策とケアの質～』を機能訓練指導員(理学療法士)が受講し、研修内にてスライディングシートを実際に使用、体験したことで必要性を感じたことがきっかけです。

職員への周知と実践

スライディングシートの導入から取り組みを開始

ノーリフティングケア研修で使用したスライディングシートを使用して、これまで二人介助で乗降していた利用者に対し、一人での乗降介助をすることから実践を開始しました。



定期的な内部研修

年間3～4回程度施設内での研修会を実施し、福祉用具の使用方法やポジショニングなどの介護技術について全職員で学ぶ機会を設けて介護技術の向上を目指しました。

外部研修での学び直し

「福祉用具を使用することがノーリフティングケア」と理解している職員が多くなり、福祉用具を使用することが目的となってしまった時期もあり、その際には外部研修の『高知県ノーリフティングケア推進リーダー養成研修』や『高知家統一基本ケアセミナー』等に参加し、研修を通してノーリフティングケアの必要性を改めて理解する機会学び直しをしました。

成果と振り返り

- 当法人では、ノーリフティング推進チームとして5つのチームを作り、毎月1回の検討会を実施しています。チームは各事業所から1人以上を選出し3～5名で構成しています。議題は統括チームの代表から出され、内容によっては、全職員にアンケートを実施し意見を吸い上げます。現状を把握するだけでなく、個人の意見が反映された計画は協力を得やすく行動に移しやすいになるので、多くの職員を巻き込んだ展開を心がけた組織体制を作ることができました。
- 入所者の平均要介護度が4.5程度の施設のため、乗降時等の介助量が多く、ノーリフティングケアの取り組みを実施する前には、表皮剥離の事故が多かったのですが、取り組み後には乗降時の表皮剥離事故が激減しました。
- 平成27年に外部研修に参加して以降、年2回職員に対して身体状況やノーリフティングケアに対するアンケートを実施しています。腰痛保有者の数字は大きく変化していませんが、7割程度の職員がノーリフティングケアを行うことで『介護する際に負担が減った』と感じているという評価が得られています。

他にもこんな取り組みをしています

令和2年度に『介護ロボットの導入支援及び導入効果実証研究事業』に参加し、インカムを使用した業務効率の向上について調査を実施しました。その結果業務効率向上にインカムは有効だとの結果となり、令和3年度中にインカムの導入をします。



株式会社Joyhappy 訪問介護事業所 ジョイハッピー

(高知市、1事業所展開、設立2012年1月)



サービス提供責任者 窪内 伸泰さん

導入のきっかけは？

これまでボディメカニクスの原理を意識して介護動作を行っていましたが、訪問介護事業所のサービス提供責任者として働き始めた時、職員から腰痛相談を受けました。解決の手立てを見つけるため情報収集している中で「ノーリフティングケア」について知り、養成研修を受講したのがきっかけです。

職員への周知と実践

2種類のシートを使って職員の健康チェック

新入職員は入社時に腰痛調査シートを、継続の職員は年に1回の健康調査シートを活用し、個人面談の中で、健康状態を確認するようにしました。



気づきを基に話し合いを実施

職員から訪問先で気付いた利用者の状態や、質問をメールで送ってもらい、すぐに回答が必要なものは対応します。また、月一回の会議で、職員からの意見や腰痛リスクの高い作業の課題について、研修で学んだPDCAサイクルで継続的に取り組み、解決をしています。



内部研修を通じて、ノーリフティングを周知

ノーリフティングケアに関する、研修を受講した者が講師となり、実習を通して基本姿勢や考え方の共有を行っています。また、腰痛予防体操の研修も行うことで、業務の合間や終了時に体操を行い、自分の体のメンテナンスを意識するようにしています。



成果と振り返り

- 家事援助業務の基本姿勢について学んだことで、仕事以外の時でもノーリフティングケアを意識することで腰痛の症状改善や予防ができ、職員を守ることに繋がりました。
- 職員から腰痛予防の資料提供があるなど、職員の意識の変化がみられたことは、定期的に研修会を行った成果だと感じています。
- 利用者の作業姿勢の課題に気づき、研修で学んだことを基に姿勢を改善することで、散歩の歩行距離が伸びたケースがあります。他にも、研修で学んだことを活かし、掃除道具を身体への負担が低いものに代えたことで、利用者自身が掃除をするようになりました。自分でできる事が増えたと喜んでいただき、利用者のQOL向上に繋がっていることは大きな成果だと感じています。

他にもこんな取り組みをしています

当事業所では、介護ソフトやメールを使って、業務の効率化を図りました。

介護ソフト 以前から使用していた介護ソフトの中にある、「訪問記録」機能を本格的に活用し始めました。

【効果】 利用者の「訪問記録」がデータで確認できるため、全職員でスムーズに情報共有することができるようになり利用者支援にとっても役立っています。

メール シフト表や連絡事項をメール送信することにしました。

【効果】 職員が、事務所に立ち寄る必要性がなくなり効率的に業務が行えるようになりました。